

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

(別紙4)

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年11月21日

【評価実施概要】

事業所番号	870700192		
法人名	株式会社 メデカジャパン		
事業所名	結城ケアセンターそよ風		
所在地	結城市曾我殿台923-1 (電話) 0296-34-7451		
評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	水戸市千波町1918 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成20年7月10日	評価確定日	平成20年11月21日

【情報提供票より】(平成20年6月15日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成14年11月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	12 人	常勤	12人, 非常勤 0人, 常勤換算 6.4人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋 造り		
	2 階建ての ~ 2 階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	65,000 円	その他の経費(月額)	20,000 円
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (150,000円)	有りの場合 償却の有無	有
食材料費	朝食	450 円	昼食 550 円
	夕食	400 円	おやつ 円
または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(平成20年6月10日現在)

利用者人数	16 名	男性	5 名	女性	11 名
要介護1	3 名	要介護2	6 名		
要介護3	4 名	要介護4	2 名		
要介護5	1 名	要支援2			
年齢	平均 84.5 歳	最低	75 歳	最高	92 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	美優クリニック、玉岡歯科医院
---------	----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホームのほか居宅支援事業所や通所介護、訪問介護などを併設した全国規模の事業所であり、県内にも数カ所の事業所を展開し、互いに連携し合ってケアのレベルアップに取り組んでいる。
毎月ユニット会議を開催し、利用者一人ひとりの現状や問題点、変化の様子などを話し合い、その結果を基に利用者のケアの統一を図っている。
職員は利用者に常にゆったりと穏やかな態度で接し、利用者のペースで生活ができるよう支援している。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の評価で課題となった事項について職員と話し合い、改善計画に基づいて実践するなど、サービスの質の向上に努めている。 また、運営体制については、引き続き職員相互の連帯感を強化するとともに、職員研修についてもさらに積極的な取り組みが望まれる。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価や外部評価の意義・目的を職員に周知している。 自己評価は全職員で行い、外部評価の課題について改善に向け具体策の検討や実践に努めている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は過去1回開催しただけである。 会議ではホームの取り組みや改善課題を話し合うなど、地域の理解や協力を得るため積極的に働きかけることを期待する。 また、定期的を開催することも期待する。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族訪問時や事業所の行事など家族が集まる機会を多く作り、意見や要望を汲みあげることに取り組んでいる。 意見箱を設置しているが活用されていないので、家族同士の話し合いの場を設けるとともに意見や苦情、要望などだされたものを代表者から伝えてもらえるよう仕組みづくりを期待する。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>自治会に加入し、利用者は夏祭りに積極的に参加している。 地域の保育園児や小・中学生がボランティアとして訪問してくれるなど地域と交流している。 地域活動や行事の情報を収集し、リサイクル活動やゴミ拾いなどに利用者が参加する機会をつくることを期待する。</p>

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者の人権尊重を重点に、住みなれた地域で「嬉しい・楽しい・ほっとする」という当たり前の生活の継続支援を理念としている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝理念を唱和し、全職員が共有している。ミーティングにおいても理念を掘下げて話し合い、ケアの統一を図っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、利用者は夏祭りに積極的に参加している。 地域の保育園児や小・中学生がボランティアとして訪問してくれるなど地域と交流している。	○	地域活動や行事の情報を収集し、リサイクル活動やゴミ拾いなどに利用者が参加する機会をつくることを期待する。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価や外部評価の意義・目的を職員に周知している。 自己評価は全職員で行い、外部評価の課題について改善に向け具体策を検討し、実践に努めている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は過去1回開催しただけである。	○	会議ではホームの取り組みや改善課題を話し合うなど、地域の理解や協力を得るため積極的に働きかけることを期待する。 また、定期的開催することも期待する。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	介護保険関連の問合せや、サービスの質の向上につなげる課題などを話し合い、市の担当者との関係づくりに努めている。	○	市の担当者の理解や支援を得るため、ホームの実態や考え方などを担当者に率直に伝え、課題を共有することを期待する。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ホーム便りに暮らしぶりや出来事、行事などを記載し報告している。 また、心身の状況についても、変化や問題が発生した場合はその都度家族に電話で報告している。 金銭管理は、現金出納台帳のコピー、レシート、領収書を毎月郵送している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族訪問時や事業所の行事など家族が集まる機会を多くつくり、意見や苦情等を汲みあげることに努めている。 意見箱を設置しているが、活用されていない。	○	家族同士の話し合いの場を設けるとともに、意見や苦情、要望などだされたものを代表者から伝えてもらえるよう仕組みづくりを期待する。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動や離職などやむを得ない場合は、あらかじめ引き継ぎ期間を十分に設け利用者への影響が最小限に抑えられるよう配慮している。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホーム以外の研修会や法人内の研修に多くの職員が受講できるよう配慮している。 また、研修報告は職員会議で行うとともに、報告書を全職員に回覧している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の施設交流は行われているが、近隣同業者との交流は積極的に行うまでには至っていない。	○	地域の同業者とネットワークをつくり、職員の相互訪問など地域全体としてサービスの質の向上につなげる取り組みを期待する。
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用前に何度か事業所を見学してもらい、利用者や家族が納得したうえで利用を開始している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の得意分野で力を発揮してもらい、互いに協力しながら支え合う生活ができる場面づくりや働きかけをしている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望を尊重している。 また、把握ができにくい利用者の場合は利用者を良く知る人々の意見を聞くなど、一方的な考えで決めつけることのないよう心掛け、利用者にあった暮らしができるよう支援している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者が安心して自分らしく暮らせるよう、利用者や家族、主治医の意見を参考に全職員で話し合い、介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の期間に応じ、毎月スタッフ会議で随時見直しを行い、会議記録に残して職員間で共有しているが、介護計画の変更もしくは追加事項の明記や家族への説明、承諾のサインはない。	○	介護計画の変更時は計画書に追加事項を明記し、家族にも説明して理解を得るよう期待する。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者や家族の意見・要望に応えられるよう、体制を整えている。 また、医療連携体制を活かし、外来受診支援や医療指示を継続しながら生活支援を行うなど、柔軟な対応に努めている。	○	多機能性の体制を整えるため、事業所指定基準の必要な研修を受講し、地域活動に貢献することを期待する。

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的に協力医療機関の医師の訪問があり医療の問題を相談している。 また、受診や通院は基本的に家族同行となっているが、家族の支援が無理な場合は職員が代行し、結果を電話で家族に報告している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者や家族の意向について事業所が対応できる最大の支援について、職員会議で話し合っている。	○	終末期の対応について利用者や家族、医師、看護師を交えて十分に話し合い、指針を定めるとともに実践に取り組むことを期待する。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	全職員が個人情報保護法を理解し、情報漏洩に細心の注意をはらって管理している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の基本的な流れはあるが時間で区切る支援はせず、一人ひとりの体調や希望にそった生活を支援している。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は専門の栄養士が立てている。朝食や夕食は、食材を購入し利用者と一緒に調理、盛り付け、後片付けをしている。また、昼食は希望のものとするなど、食事が1日の楽しみや活動の場となるよう支援している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的に毎日入浴できる体制となっている。浴槽を2個設置し、気の合う利用者同士一緒に入ることもある。入浴を拒む利用者には、その人と気の合う職員が対応したり、時間をずらして誘うなど一人ひとりに合わせた入浴支援をしている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者それぞれの得意分野で力を発揮してもらえるよう声かけを行い、その人に合った役割をお願いしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気や気分、希望に応じ近所の散歩や買い物など一人ひとりが外出を楽しめるよう支援している。また、公園に出かけて自然に触れるなど、気分転換や五感を刺激する機会をつくっている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関に鍵をかけることで利用者にも与える影響を十分に理解している。利用者の様子をうかがい、さりげなく声掛けをして誘導するなど、意思を尊重し自由な行動を妨げることのないよう配慮している。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災訓練計画に基づき消防署の協力のもと、年1回避難訓練をしている。 また、職員間で緊急連絡網や緊急避難時の対応手順をスタッフルームの目につきやすい場所に掲示し、常に意識するよう心掛けている。	○	自治会や運営推進会議の開催時に訓練計画を提示し、地域の人々の協力が得られるよう働きかけることを提案する。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士が作成した献立表に基づき、食事摂取量や水分量を個人記録に残し、職員間で情報を共有している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアは利用者が居心地良く安心して過ごせるよう家具の配置や方向を工夫し、ゆったりとくつろげるよう配慮している。	○	居心地良く過ごすための共用スペースについて、職員の話し合いだけで決めるのではなく、利用者や家族、外来者の感想や意見を取り入れることを期待する。
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や馴染みのものを自由に持ち込み、自分らしく生活できるよう家族に説明している。 持ち込みがなかったり家族の協力が得られなかった場合は、職員が利用者らしく暮らせるよう心地よい居室づくりに取り組んでいる。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。